

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

幼稚園番号	2684411
園名	府中白百合第二幼稚園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

体操

<テーマの設定理由>

広い園庭のある当園では子ども達が思いっきり園庭を走り回ったり、ボール遊びや縄跳びをする姿が見られる。当園の特徴を生かし、幼児期に運動の楽しさを知り、健康で丈夫な身体を作る事は大切であるという考えから、子ども達の更なる運動における探究心や運動能力向上の為、各学年週1回の体操専門講師による体操指導を設けている。又、梅雨時期の6月と運動会後の11月は、園に常設されている温水プールを使用し、体操指導を水泳指導に切り替えて行っている。子ども達が目標を持ち自らチャレンジする経験を大切に、運動の楽しさと運動の幅や技術の向上をはかっていきたい。

2. 活動スケジュール

◎年間スケジュール

- 1学期…集団ゲーム、マット運動、鉄棒、走る、プール、親子体操(年長・年中)小運動会、縄遊び、組体操(年長)
 - 2学期…かけっこ、リレー(年長)、短縄、長縄、ボール運動、鉄棒、プール、運動会種目、ドッチボール大会(年長)
 - 3学期…長縄、短縄、ボール運動、鉄棒、マット運動、跳び箱、中当て(年中)、リレー(年中・年長)、サーキット運動(年中・年長)、サッカー大会(年長)親子体操(年少)
- ・様々な運動遊びの中で出来るだけ多くの動きを体験する。
 - ・リレー、ドッチボール大会、サッカー大会などクラスごと、チームごとに行う競技では、みんなで作戦を立てたり速く走れる方法を追及することを経験し、楽しむ。

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください

<環境設定>

- ◎全学年週1回、担任や体操教師と一緒に体操する体操指導の時間を設け、子どもがより主体的に運動活動に取り組めるよう環境を設定している。
- ◎様々な体の動かし方を体験できるように、鉄棒、跳び箱、マット、ボール運動、短縄、長縄、走る、とバランスよくカリキュラムを組んでいる。
- ◎タブレットで記録を撮り、成長の過程を実感し、より良い運動活動にするためにクラスみんなで振り返る機会を設けた。
- ◎運動会のご褒美の個人持ちの縄跳びやボールを使って、運動遊びを行っている。
- ◎年長組では「なわとびカード」を作成し、前跳び、後ろ跳び、走り跳び、あや跳び、二重跳びなど様々な跳び方に挑戦したり、次への意欲や目標が明確になった。

<活動内容・子どもの姿>

- ◎運動会の種目の練習の様子や過程、自分たちの演技など、タブレットやビデオで活動を記録した動画をクラスや学年で見返すことで、より良い表現方法を皆で考え取り組んだ。映像を通して振り返ることで、客観的に自分たちの表現を観ることができ「もっと手を伸ばした方が良いと思う。」「ここは格好良く決まっているね。」など、子どもたちから意見が出て皆で考えたり、次への意欲に繋がるきっかけとなった。
- ◎「走る」が運動の基本という考えから、ひとり一人の40m走のタイムを計り、自己タイムを更新する事を目標に、毎日園庭で鬼ごっこをしたり、たくさん走る事を楽しみながら、行っている。「先生、競争しよう!」「先生、タイム計って!」などの声上がるようになり、走ることが苦手な子も、自分のタイムが少しずつ縮まることに喜びを感じ、結果ではなく、自分の持てる力を出す事の大切さを感じている。
- ◎リレーでは、体操講師から走り方や、バトンパスの方法などを教わり、園庭で自主的に走りっこをする等、子ども達同士で練習したり、走る順番等「1番に、はい○○ちゃんてリードしよう!」「抜かれたら、次に僕が抜き返すから大丈夫だよ!」など、クラスごとに工夫し作戦を立て、より早く確実にバトンを繋ぐには何が大切か、どうしたらよいかなど担任を交えながら、子ども達が主体的に話し合い、順番を考えた。
- ◎鉄棒や縄跳びなど練習が必要な運動では、体操指導で習ったことを自由遊びの時間に繰り返し試しながら練習する等意欲的・主体的に取り組む姿が見られた。
- ◎年長組は「なわとびカード」で色々な跳び方をクリアし、カードを集める事を楽しみながら友達と誘い合って練習する姿が見られる。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ◎体操教師に体の動かし方、道具の効果的な使い方のアドバイスを受けることで、子どもだけでなく保育者も体操の指導方法や効果的な声掛けを学ぶことができた。又、客観的に子ども達個々の活動への取り組み方を目で見て知ることで、自由遊びの時間に子どもたちの「挑戦してみたい」「やってみたい」という気持ちに寄り添い、アドバイスすることができ、子どもたちのやる気を次の体操指導日を目標に持続し、成果を上げ自信につなげることが出来た。
- ◎タブレットや携帯の動画を使用し、子ども達自身の姿を映像で観ることで、より良くするための工夫や意見が子どもたちから積極的に出た。客観的に捉えられることから自らなりたい姿をイメージし、どうしたら近づけるかを考える探求心が芽生えた。
- ◎楽しみながら体を動かす機会を多く設けることで、走る力や体を支える力がつき、友達と一緒にアスレチックや鬼ごっこを繰り返し楽しむ姿が見られた。もっと上手になりたいという気持ちも育ち、鉄棒やなわとびを進んで行う姿があった。
- ◎保育内の水泳指導によって、今まで水の苦手だった子ども、お友達や担任や体育教師と水に親しむ時間が出来、少しずつ水と仲良しになっていく様子が見られる。「泳げるようになりたい！」と意欲的に気持ちが変わっていくと、課外教室の水泳教室に入会を希望する子どもおり、子どもの興味や関心を次へのステップに進める環境があるのは、子どもにとってもとても良い事だと思う。